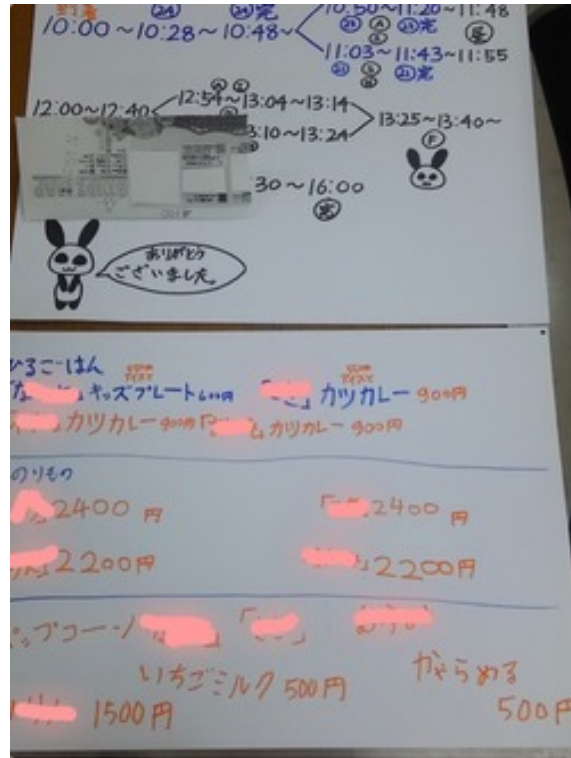
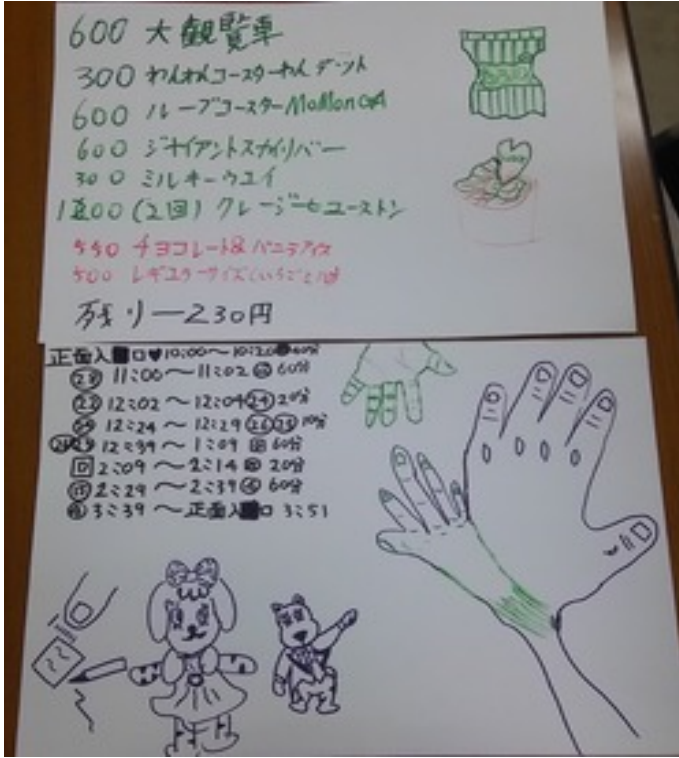


## 【活動レポート】2/3 学生がワークショップをしました(府中国際交流サロン児童学習支援／学習支援サークルくりふ)



府中国際交流サロンでは、毎週金曜日に本学学生たちが「児童学習支援」の教室を開催しています。通ってきている子どもは、府中市内に住んでいる小中学生で、府中市主催、教室の企画運営はすべて本学学生に任されています。

2月3日に、本学学生が小学生向けにワークショップを開催しました。当日の様子を、学生がレポートしてくれました。

\*\*\*

2月3日に、日本語を使ったグループアクティビティとして、シュミレーションゲームを行いました。「グループで遊園地に行く計画を立てよう」というテーマで、決められた予算や時間の中で話し合いながら計画して、最後に発表するという形をとりました。

普段の活動では子供と学生が1:1でそれぞれの勉強をしていますが、今回は子供たちが協力し合い、課された条件の範囲で協力し、自分の意見を出しあって結論を出し、発表の資料を作り、日本語を使っての発表を経験することを目的として企画しました。遊園地であればイベントも多様なアトラクションもあるため、興味を示す子供に偏りが出ないと思い、テーマとして選びました。事前に

遊園地の園内マップや写真付きのアトラクションの表を抜粋して用意し、条件である予算や時間を決めて、当日は子供たちを自主的な言動をサポートする役に回りました。

受験期の中学生を除いた子どもたちをグループに分け、時間内でやってほしいことを説明してから、それぞれのやり方で進めてしてもらいました。子供たちは用意された資料を読み、分からない漢字は教え合ったり、カタカナを積極的に音読したりしてそれぞれのペースで情報を得ようとしていました。また、計算の得意な子、発表準備の際にレイアウトや文字を書くのが好きな子など、やりたい役割を探して活動している姿が印象的でした。また、グループによる進捗状況の差や、考慮する情報の深さ(アトラクションからアトラクションへの移動時間を予測したり、身長制限を確認したり)が違っており、自由度を保てたことは良かったです。学生にとっても、発表

の際に子どもが話すときの癖や、日本語の使い方で改善点は何か(文を繋げすぎる、助詞の使い方を間違えやすいなど)を総合的に確認することができ、今後の学習支援を行ううえでの一つの指標にもなりました。低学年の子には少し難しい活動だったこと、途中で飽きてしまう子が出てきてしまったこと、使って欲しい日本語を例として明示できなかったことは反省点として挙がりましたが、実際に日本語を使うシチュエーション、学校で習った計算、読み書きの能力を発揮できる場を設けられたことは、実践につながられたという点で大きかったと思います。

「実際にこれを使って友達と行きたい！」という子供の声には喜ばされました。また、普段のマンツーマンでの活動だけでは見られない、子供の協調性やリーダーシップも間近で見ることができ、子どもに寄り添っていく上で必要な理解もできたかなと思います。普段の学習支援が日常生活等で生きてくることを願って、これからも支援していきたいです。

(国際社会学部西アジア・北アフリカ地域 2 年 岩田紗知)

はじめに学年が混ざるようにグループ分けをし、遊園地の資料を各グループに配布した後、どのように遊ぶかの話し合いを始めました。「〇〇乗りたい」「〇〇食べたい」と意見を出し合ったり、アトラクションの名前からどんな乗り物か想像したり、行ったことのある子が他の子に説明したりする姿が見られました。また、協力しながら金額の計算や画用紙へのまとめをし、発表の準備をしました。二枚の画用紙に計画の内容をどのようにまとめるかについては子どもたちに任せていたので、グループごとに個性的に仕上がっていておもしろかったです。

時間は当初の予定より短くなりましたが、グループごとにみんなの前に出て自分たちの計画を発表しました。「×時から×時まで〇〇に乗ります」「合計で△△円かかります」などの表現を使って上手に説明できていました。

自分たちだけで遊びに出かけたことがないという子が多く、シミュレーションではあるけれど、子どもたちがわくわくしながら計画を立てている姿をみて嬉しかったです。また、お金の言い方やアトラクションの名前としてたくさん出てきたカタカナの読み方・書き方などに勉強の成果が見られた、逆に課題を発見したという振り返りもあり、普段の活動にいかしていきたいと思いました。実施してみて感じたのは、今回のアクティビティはグループ活動の要素が特に強かったという点で難しかったな、ということです。年齢が混ざるようにグループをわけましたが、日本語習熟度や性格が当然それぞれ異なるので、みんなが楽しめるようにもう少しうまくサポートできればよかったというのが反省点です。

(言語文化学部英語 2 年 中村真子)

子どもと一緒に参加した学生の感想は、以下の通りです。

\* \* \*

とても面白い企画だったと思います。日本語がまだ追いついていない子も、写真などの資料が用意されていたので指差しや「はい」「いいえ」などの簡単な言葉を使って活動に参加できていました。進んで話し合いをまとめてくれる子どものリーダーシップを見ることができたし、お金の計算など日本語以外の要素が含まれていたことで、様々な日本語レベルの子どもが一人ひとり役割を見つけることができたと思います。最後の発表も、日本語を人前で話すことができたという経験が子どもの自信に繋がると子どもたちの表情を見て思いました。ただ今回のゲームに限らず、集団行動が苦手な子どもをどう誘導するかが難しいと感じました。学校ではないので、「やらなければいけない理由」が存在しないことを押し付けるわけにもいかないし…。サロンを、子どもに何かを強制する場所にもしたくないし…。「楽しい」と思わせる何かが必要だと思いました。

(国際社会学部西アジア・北アフリカ地域 3 年 佐藤環)

中学生の子にとっては簡単な内容ではあったけれど、年齢のバランスを考えてチームを決めてもらったので、普段交流の少ない子と関わる事ができたと思います。中国の子が3人いたので、中国語でどんどん話してしまい、1人が置いて行かれてしまう場面がありましたが、日本語で説明して、と頼むと上手に説明してくれました。チーム作業や発表を通して、積極性が見られたので、自信に繋がる活動になったと思います。

(国際社会学部南アジア地域 3 年 渡辺優)

日時: 2017 年 03 月 08 日